

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

国語 第129号

—中学校、特別支援学校対象—
平成26年4月発行

鹿児島学習定着度調査を生かした指導法改善 —思考力・判断力・表現力の育成を目指して—

これまで『基礎・基本』定着度調査では、「知識・技能の習得とそれらの活用」、「言語活動の充実」等の趣旨の下、解答を選択式から記述式に変えたり、図表を読み取って説明させたりするなど、活用に関する問題がより多く取り入れられてきた。今回、「鹿児島学習定着度調査」と名称を改め、全国学力・学習状況調査で課題とされる、主として「思考・表現」に関する問題が3割程度出題されている。

全国学力・学習状況調査のいわゆるB問題では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力が求められており、今回の鹿児島学習定着度調査においても、「思考・表現」に関する問題にその趣旨が生かされている。

そこで、本稿では、実際に出題された設問を分析し、教科書教材を用いた指導と評価にどのように結び付けていけばよいのか、言語活動をいかに効果的に取り入れていけばよいのかについて、当教育センターの研究協力員の実践を基に述べる。

1 これまでの「基礎・基本」定着度調査結果等から見える中学校国語科における課題

県教育委員会は、平成22年度から平成24年度の過去3年間の『基礎・基本』定着度調査結果（概要）」で、課題となる能力を、次のように具体的に示している。

【平成22年度】

- 〈中1〉 図・表(地図)を用いて分かりやすい説明の文章を記述する能力
- 〈中2〉 自分の立場を明確にして文章の構成を工夫する能力や、事実や意見が相手に効果的に伝わるように、根拠となる事実を引用して、自分の考えを記述する能力

【平成23年度】

- 〈中1〉 決めた立場に立って、理由や目的を明確にして記述する能力
- 〈中2〉 事実や意見が相手に効果的に伝わるように、報告文から根拠となる事実を取り上げて、自分の考えを記述する能力

【平成24年度】

- 〈中1〉 意見文の内容を参考にして、納得できない理由について、グラフと関連付けて、意見や考えを記述する能力
- 〈中2〉 伝えたい事実や事柄を明確にして構成を工夫することなどの能力

波線部に表れた課題や今回の出題の意図から、「書くこと」領域の中でも「構成」、「記述」に関する言語活動を積極的に取り入れ、ねらいとする指導事項を身に付けさせると同時に、それらについて適切に評価する手立てを工夫することが思考力・判断力・表現力の育成につながると考える。

2 鹿児島学習定着度調査問題を通して身に付けさせたい能力

平成25年度鹿児島学習定着度調査では、思考力等を評価する問題として、「案内文」や「手紙」、「電子メール」、「読書郵便」、「報告文」といった様々な種類の文章が取り上げられている。これらは、学習指導要領の内容(2)に具体的に例示された「発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評」など、社会生活に必要とされる言語活動に取り組む際に利用したい適切な教材である。

説明的文章に関する問題を具体的に分析すると、第1学年の大問7は、3点の「読書郵便」から1点を選ぶための話し合いの様子や発表原稿を提示し、選んだ理由等について答えさせる問題である。

平成 25 年度問題 〈中 1 国語〉 7

設問三 (一部改作)

先生から「山下さんの読書郵便には他の2人にはない特徴が他にもあるのではないですか。」とアドバイスされたため選んだ理由をもう1つ追加することにした。次が訂正した発表原稿である。

(発表原稿)

これから一班の発表を始めます。私たちの班は、あと2か月で中学校に入学してくる小学校6年生に山下さんの作成した読書郵便を届けたらいいと思います。

その理由は2つあります。まず、山下さんの読書郵便は項目に分けて書かれていて、分かりやすいからです。項目に分けて書くことで、紹介したい本の内容は確実に伝わると思います。

次に、

以上が山下さんの読書郵便を選んだ理由です。これで発表を終わります。

他の2人の作品にはない特徴という点をふまえて、山下さんの読書郵便を選んだもう1つの理由を、次の条件にしたがって書け。

読書郵便

〇〇小学校6年生の田中君へ

田中君、こんにちは。
今日は〇〇中学校の図書館にある本を紹介し、入庫し、ぜひ借りて読んでみてくださいね。
おすすめの本
「やまがこのうた」(笹山久三)

★あつたに
主人公のやまが、近所の男の子と山にイタドリという山菜をとりに出かけます。(かし、やまがと兄さんは、テンオオイタドリを隠しているのを見まします。すると兄さんは…)

★おすすめポイント
仲間との絆や兄さんへの思いがこぼれかいたる。読み終わると思わされてくれる本です。

差出人 〇〇小学校 山下

山下さんの読書郵便

- ① 他の2人の作品にはないという特徴をふまえて、発表原稿を参考にしながら、読書郵便を選んだ理由を書くこと。
 - ② 「次に、」という言葉も含めて、80字以上、100字以内で書くこと。

この設問からは、項目に分けて書くことで分かりやすい表現になること、相手や目的を意識することで伝えたい事実や事柄が明確になることを捉えさせようとしている。

第2学年の大問7は、ゴミの減量化に関する2人の報告を比較し、問題点等を指摘する設問で、報告文の形式や留意事項を答えさせるものである。

平成 25 年度問題 〈中 2 国語〉 7

〈田中君の報告〉

S市の発表した資料によると、家庭から出されるゴミは、5年前には約10万トンでしたが、昨年度は約7万3千トンでした。約2万7千トンの減量ができているということになります。

〈青木さんの報告〉

私の母は、我が家の近くのゴミ集積場に出されるゴミの量は以前より少しは減っているようだ、と言っていました。また、市内に住んでいる叔母にも尋ねてみましたが、やはり減っていると思うという答えでした。そのことから考えても、S市のゴミの量は、それほどたくさんではないにしても、減っているようです。

設問一

〈田中君の報告〉では、「S市の発表した資料」としか述べておらず、その資料をどこから取り出してきたのかわからない。報告を受けた人が、直接資料を確認することができるように、何を示すことが必要か。

設問二

〈青木さんの報告〉には、問題点がある。あなたは、何が問題であると考えてるか。

これらの設問からは、記録文や報告文において、引用する目的を明確にし出典を明らかにするとともに、根拠を明確にした具体的な記述が大切であることを捉えさせようとしている。

鹿児島学習定着度調査問題におけるこれらの設問を通して、身に付けさせたい能

力をまとめると次のようになる。

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる能力
- ・ 表現の仕方や文章の特徴を捉え自分の表現に役立てようとする能力
- ・ 関連付けた複数の情報を基に自分の考えを論理的に書くことができる能力

3 「構成」、「記述」に関する言語活動を取り入れた実践例

実際の教材レベルで、どのような言語活動を取り入れどのような指導の工夫をすれば、ねらいとする能力を身に付けさせることができるのか、研究協力員の実践を基に述べる。

(1) 表現の仕方を身に付けさせる工夫

単元①は、調べた情報を整理し、「問い」と「答え」を意識した報告文を書くという取組である。

<p>単元①：報告文を書こう 教材名：「ダイコンは大きな根？」(光村図書1年) 指導事項：B 書くこと(1)イ「構成」 主な活動：「問い」や「答え」という段落の役割を押さえ、要点をまとめる</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「問い」や「答え」を意識した報告文を書く 生徒の表現例</p> <table border="1"><tr><td style="text-align: center;">報告書</td></tr><tr><td style="text-align: center;">1年○組○番 ○○○○</td></tr><tr><td>問い 「ヨーロッパでは、なぜ、『トマト』を『リンゴ』と呼ぶのか。」</td></tr><tr><td>答え ヨーロッパでは、高価な果物や野菜を「リンゴ」と呼んでいる。</td></tr><tr><td>国によって呼び名が異なり、イギリスやフランスでは「愛のリンゴ」、イタリアでは「金のリンゴ」と呼ばれている。</td></tr><tr><td>出典 鈴木哲『極楽トマト』講談社 2010年 坂井宏先『ポプラディア』ポプラ社 2011年</td></tr></table>	報告書	1年○組○番 ○○○○	問い 「ヨーロッパでは、なぜ、『トマト』を『リンゴ』と呼ぶのか。」	答え ヨーロッパでは、高価な果物や野菜を「リンゴ」と呼んでいる。	国によって呼び名が異なり、イギリスやフランスでは「愛のリンゴ」、イタリアでは「金のリンゴ」と呼ばれている。	出典 鈴木哲『極楽トマト』講談社 2010年 坂井宏先『ポプラディア』ポプラ社 2011年
報告書						
1年○組○番 ○○○○						
問い 「ヨーロッパでは、なぜ、『トマト』を『リンゴ』と呼ぶのか。」						
答え ヨーロッパでは、高価な果物や野菜を「リンゴ」と呼んでいる。						
国によって呼び名が異なり、イギリスやフランスでは「愛のリンゴ」、イタリアでは「金のリンゴ」と呼ばれている。						
出典 鈴木哲『極楽トマト』講談社 2010年 坂井宏先『ポプラディア』ポプラ社 2011年						

教科書教材で、「問い」や「答え」という段落の役割に着目し、要点をまとめた後、報告文の書き方を学習する。

具体的には、テーマに即した「問い」を考え、収集・選択した情報を中学生に理解できる言葉に直し、適切な語句や文末表現等を使って「答え」にまとめさせる。「問い」と「答え」という項目に分けた報告書にすることで、第1学年大問7の設問中の記述にあるように、「伝えたい内容がはっきりするし、分かりやすい」構成になることを理解させることができる。

また、この設問では「小学6年生」へ「中学校生活への期待を抱かせる」内容を記述することが求められている。

「同級生」に「野菜に関する情報を報告書の形で伝える」ことを意識させることで、相手意識や目的意識をもつことの大切さを指導することができる。

さらに、第2学年の大問7の設問一とは、引用した文章の出典等の明記という部分で関連した指導ができる。

(2) 表現に説得力をもたせる工夫

単元②は、段落の役割を考え、自分の思いを伝える文章を書く取組である。

<p>単元②：段落のまとまりを意識して書こう 教材名：「ちょっと立ち止まって」(光村図書1年) 指導事項：B 書くこと(1)イ「構成」ウ「記述」 主な活動：段落相互の関係を考える</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>3段落構成で自分の思いを伝える文章を書く 生徒の表現例</p> <table border="1"><tr><td>私の夏休みの目標は、走る練習をして動ける体を作ることです。理由は、2学期の体育祭で学級対抗の全員リレーをするからです。私は、日頃運動をせず、走ることが苦手です。小学校の運動会でも、50mを過ぎたあたりからスピードがグンと落ちてしまいました。今回は、学級27人と、担任、副担任の先生でバトンをつなぐことになっています。アンカーがゴールしたときに、私自身も、みんな頑張ったという達成感を、中学校の初めての体育祭で味わいたいと思っています。だから夏休みは、毎日、走る練習をがんばります。</td></tr></table>	私の夏休みの目標は、走る練習をして動ける体を作ることです。理由は、2学期の体育祭で学級対抗の全員リレーをするからです。私は、日頃運動をせず、走ることが苦手です。小学校の運動会でも、50mを過ぎたあたりからスピードがグンと落ちてしまいました。今回は、学級27人と、担任、副担任の先生でバトンをつなぐことになっています。アンカーがゴールしたときに、私自身も、みんな頑張ったという達成感を、中学校の初めての体育祭で味わいたいと思っています。だから夏休みは、毎日、走る練習をがんばります。
私の夏休みの目標は、走る練習をして動ける体を作ることです。理由は、2学期の体育祭で学級対抗の全員リレーをするからです。私は、日頃運動をせず、走ることが苦手です。小学校の運動会でも、50mを過ぎたあたりからスピードがグンと落ちてしまいました。今回は、学級27人と、担任、副担任の先生でバトンをつなぐことになっています。アンカーがゴールしたときに、私自身も、みんな頑張ったという達成感を、中学校の初めての体育祭で味わいたいと思っています。だから夏休みは、毎日、走る練習をがんばります。	

教科書教材で、段落相互の関係について学習した後、段落のまとまりを意識して「初め・中・終わり」からなる3段落の文章を書かせる。第2学年の大問7「設問二」のように、「～ようだ、と言っていました。」や「～と思うという答えでした。」という文末表現では、伝聞による不確かで不正確なものになることに気付かせたい。教科書教材の記述を参考に前ページの生徒の表現例のように、中の段落に過去の体験に基づく具体例や理由を入れ、終わりの段落に根拠を明確にした自分の考えや抱負を書かせることで、記述に説得力をもたせることができる。

(3) 自分の考えを論理的に書かせる工夫

その他、教科書教材（「シカの落穂拾い」光村図書1年）の項立てや図表の使い方を学習した後、同じ項立てで記録文を書かせる取組がある。論理展開を意識しながら図表を効果的に活用した記録文を書くことにより、第1・2学年大問7の各設問において必要とされる能力を総合的に育むことができる。すなわち、課題や立場に応じて適切な情報を取捨選択する能力や自分の経験に基づいた情報と合わせて再構成する能力、さらに、図表を効果的に活用して記述する能力を高めることができる。

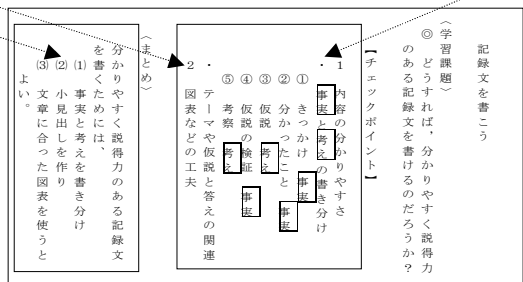
このように、言語活動を効果的に設定し、指導事項の関連を踏まえながら指導することで、「思考・表現」に関する能力を、意図的、計画的に育成できるようにになると考える。

4 評価と指導の一体化を目指した取組

当教育センターでは、生徒の思考・判断の過程やその結果としての表現をよりよく評価するために、「判断基準」を設定している。例えば、先の教科書教材における評価規準と「判断基準」を下表のように設定することで、思考力・判断力・表現力を評価しやすくなる。

評価規準（書く能力） 観察・仮説・検証・考察などの論理展開を意識し図表を効果的に活用して記録文を書いている。
判断基準 ア 論理展開を意識し、小見出し「きっかけ」「事実（記録）からわかったこと」「仮説」「仮説の検証」「考察」に合わせて記録文を書いている。 イ 事実と考えを書き分けている。 ウ 図表、写真、イラストなどを使用し、記録文を書いている。 エ 収集した材料を、適切な語句や文末表現等を使って表記している。

また、「判断基準」を、生徒による作品の自己評価や相互評価の際に、評価の観点としてチェックシート等に用いることも可能である。さらに、下図のように「判断基準」を板書に生かすことで、本単元で身に付けるべき力を生徒自身が確認することもできる。



このように、鹿児島学習定着度調査問題のねらいを指導法改善の観点とし、実際の授業に生かすことが大切である。

- 引用・参考文献—
- 「鹿児島学習定着度調査」問題 平成25年度
 - 鹿児島県教育委員会『『基礎・基本』定着度調査』結果（概要）平成22～24年度
 - 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成20年

（教科教育研修課）